St. Luke's International University Repository

# Development of Online Educational Material to Provide Simulated Clinical Training Experience from Difficulty to Discovery to Enjoyable: FY2020 Project to Promote Educational Reform


| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2022-03-28<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 縄, 秀志, 佐居, 由美, 樋勝, 彩子, 鈴木, 彩加, 亀田, 典宏, 田中, 加苗, Nawa, Hideshi, Sakyo, Yumi, Hikatsu, Ayako, Suzuki, Ayaka, Kameda, Norihiro, Tanaka, Kanae<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://doi.org/10.34414/00016582 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

# 臨床実習における困難から楽しさの発見までを疑似体験できるオンライン教材の開発

## ―2020年度 教育改革推進事業報告―

縄　　秀志　　佐居　由美　　樋勝　彩子　　鈴木　彩加　　亀田　典宏　　田中　加苗

# Development of Online Educational Material to Provide Simulated Clinical Training Experience from Difficulty to Discovery to Enjoyable

## ―FY2020 Project to Promote Educational Reform―

Hideshi NAWA　Yumi SAKYO　Ayako HIKATSU　Ayaka SUZUKI
Norihiro KAMEDA　Kanae TANAKA

〔Abstract〕

Teaching material for alternative nursing training was developed even though nursing education practicum in ward training was cancelled for second- and third-year undergraduate students due to COVID-19. Video resources form a major part of the teaching material on health assessment, nursing skills, and clinical judgment. However, there are no videos on students' experience of exposure to the process of overcoming difficulties in the clinical training environment and discovering alternative nursing.

Therefore, we plan to develop teaching material by simulating student nurses experience in the ward and learning how they overcome difficulties and discover nursing in relation to patients, nurses, and teachers. We summarized the experience of 96 second-year students, who completed on-campus alternative training for nursing practicum, after watching course videos. The results revealed that students "experienced a simulation of the reality of training," "obtained tips on overcoming difficulties," "discovered important points in nursing practice," and "developed expectation and motivation toward future training."

We are reporting on this video because our study results show that it would be useful as teaching material for simulating clinical training.

This teaching material was developed by faculty members of Fundamentals of Nursing and Principles of Nursing Science as part of the university's efforts to promote the educational reform project in 2020.

〔Key words〕 Alternative nursing training, student nursing experience, simulated experience, simulation teaching material development

〔要 旨〕

COVIT-19により学部２年生および学士３年生の看護展開論実習の病棟実習が中止される中で，代替看護実習の教材開発に取り組んだ。教材を検討する中で，ヘルスアセスメントや看護技術および臨床判断の動画教材は多くあるが，学生の臨地実習での困難やそれを乗り越えながら新たな看護の発見をする学生の

聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

受付　2021年10月20日　　受理　2021年11月16日

体験のプロセスをテーマにした動画は全く見当たらなかった。

そこで，病棟での学生の看護体験を疑似体験し，患者，看護師，教員との関わりの中で，学生が困難をどのように乗り越えていくのか，学生がどのように看護を発見するのかをテーマにした教材開発に取り組んだ。2020年度看護展開論実習の学内代替実習を終えた学部２年生96名の動画視聴後の感想をまとめた結果，学生は【実習のリアルを疑似体験できた】【困難を乗り越えるヒントを得る】【看護実践におけるポイントを見出す】【今後の実習への期待と意欲待】を感じていた。本動画は，臨地実習のシミュレーション教材として有用であることが示唆されたので報告する。

本教材開発は，2020年度の本学の教育改革推進事業の一環として基礎看護・看護技術学の教員で取り組んだ。

〔キーワーズ〕 代替看護実習，学生の看護体験，疑似体験，シミュレーション教材開発

## Ⅰ．はじめに

2020年度は，COVID-19のために病棟実習ができない状況になり，全国の看護系大学では，代替実習の準備に取り組み，実習目標を達成するための実習内容の検討，実習方法や実習教材の準備等に奔走した。本稿では，学部２年生と学士編入３年生の看護展開論実習－受け持ち患者に看護過程を用いて看護実践を展開する－における動画教材の開発について報告する。

学習目標を達成するために，バーチャルオンライン教材の vSim® for Nursing（以下 vSim®）を使用[1), 2)]したり，事例を作成し模擬患者に看護過程を用いて看護実践をするプログラムを作成[2), 3)]したり，代替実習を準備した。

教材を検討する中で，ヘルスアセスメントや看護技術および臨床判断の動画教材は多くあるが，学生の臨地実習での困難やそれを乗り越えながら新たな看護の発見をする体験のプロセスを描いた動画は全く見当たらなかった。

そこで，病棟での看護体験を疑似体験し，患者，看護師，教員との関わりを通して，学生が困難をどのように乗り越えていくのか，学生がどのように看護を発見するのかをテーマにした教材開発に取り組むことにした。教材開発は，2020年度の本学の教育改革推進事業の一環としてんだ。

本稿では，動画教材の作成と2020年度看護展開論実習で動画を視聴した学部２年生の感想を基に動画教材の可能性について，報告する。

## Ⅱ．科目の概要と教材開発のねらい

「看護展開論実習」は学部２年生100名を対象とした２単位の実習である。本実習は12月の Knowing the Patient 実習と２月の Nursing Process 実習から構成されており，「既習の学習内容を活用し，患者への理解を深め，患者にとって安全安楽な看護を，看護過程を用いて展開する」ことと「看護実践を通して，People-Centered Care 及び看護に対する自らの考えを明らかにし，看護専門職としての態度を養う」ことを学習目的としている。

学生にとっては，初めて患者１名を受け持ち，看護実践を体験する実習である。Knowing the Patient 実習では，アセスメントから看護問題の同定までを実践し，Nursing Process 実習では，アセスメントから看護計画の立案・実施・評価までを実践することになっている。

前述したように，バーチャルオンライン教材の vSim® の使用や模擬患者に看護過程を用いて看護実践する代替実習は，学生５－６名が１グループとなり取り組む。グループメンバーは，同じ事例患者に対する看護過程の展開における思考過程を個人ワークとグループワークを通して，アクティブラーニングで学ぶ。学習の一部には，模擬患者へのヘルスアセスメントの実施や看護計画の実施を含んでいるが，グループで相談しながら実施する内容である。学内の代替実習では，学生の学びのペースが重視され，患者の状況は固定され，学生が納得できるまでワークをすることが可能な学生中心の実習が展開される。

一方，通常の病棟実習では，一人の学生が自分の受け持ち患者に関わり，看護師や教員の指導を受けながら，その時その場で対応を迫られ行動する。病棟の患者中心の実践においては，様々な状況・多くの情報があふれる中で，その時その場で学生は判断し行動し，自分の行動の責任を引き受けることが求められる。この点が，学内の代替実習と大きく違う点であると言える。

本動画教材は，「患者中心の臨床の場において，学生がその時その場で判断し行動し，自分の行動の責任を引き受けながら看護実践を体験する看護学生の姿」を描いている。具体的には，①学生がどのような困難を感じているのか，②患者，看護師，教員との関わりの中で，どのように困難を乗り越えていくのか，③自分の看護体験をどのように積み重ねて看護を発見するのか，そのプロセ

スを示し，視聴した学生が動画に登場する学生に自分を重ねて，臨地実習を疑似体験できることを目指した。

## Ⅲ．教材開発のポイントと内容

### 1．教材作成のポイント

動画の構成内容を考える上のポイントを以下に示す。

① 学生が実習で体験する困った場面・一歩踏み出すことで変化が生じる場面を抽出する。

② 療養上の問題を抱える患者に，学生が関り看護ケアを実施することで，患者の反応や健康上の課題が変化することを実感できる内容にする。

③ 学生は，患者のみならず看護師，教員との関わりを通して看護の発見をする。正しい答えを求める内容ではなく，動画を見ながら学生として「自分であれば，どう感じ，どう考え，どう行動するか」に焦点が当たる仕掛けをつくる。

④ 初学者が理想とする看護師像を見い出す助けになる内容にする。

⑤ 学生が集中して視聴できる30－40分程度に収める。

これらを担保しながら看護展開論実習の目的（対象の理解を深め，患者にとって安全・安楽な看護について看護過程を用いて展開する。また，看護に対する自らの考えを明らかにし，看護専門職としての態度を養う。）が達成できる動画教材の開発に取り組んだ。

### 2．動画教材の構成内容

動画の場面としては，16場面が候補に挙がったが，最終的には９場面に絞り込み，36分間の動画が完成した。内容を（**図１**）に示す。場面ごとに開始時間を提示し，視聴したい個所に戻れるように工夫した。

登場人物は，患者の築地さん，学生の明石さん，看護師の湊さん，教員の新富先生で，それぞれの役を教員が演じた。

患者の築地さんは，慢性心不全の急性増悪で入院となり，呼吸困難と浮腫に対して酸素投与と利尿薬の投与を受けていて生活行動の援助が必要な状況である。

学生の明石さんは，学部２年生で初めて患者を受け持つ実習３日間に臨む（**表１**）。

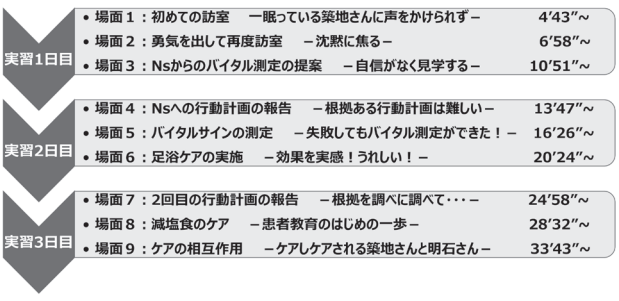


図１　場面のタイトルと時間

表１　実習１日目～３日目までの概要

〈実習１日目〉

学生の明石さんが病室を初めて訪室した時，築地さんは眠っていました。明石さんは，声をかけられずにナースステーションに戻って困っているところに教員の新富先生が声をかけます。先生との関わりを通して，明石さんは，勇気を出してもう一度訪室し，声をかけ，築地さんとコミュニケーションをとりますが，何度も沈黙に焦ってしまいます。そこに看護師湊さんがバイタル測定に訪室し，明石さんにバイタル測定をしますか？と提案してくれました。技術に自信がない明石さんは，見学することにしました。各場面で明石さんは自問自答しながら大切なことに気づいていきます。

〈実習２日目〉

学生の明石さんは，ナースステーションで看護師湊さんに行動計画を報告します。湊さんから実施するケアの根拠を尋ねられ，緊張しながら説明します。昨日出来なかったバイタル測定を実施しますが，血圧が聴き取れず，２回目に挑戦し，無事に測定できました。リハビリが始まり足の疲れを訴える築地さんに足浴ケアを実施します。足浴ケアを通して明石さんと築地さんとのコミュニケーションは深まり，築地さんから「ありがとう」を頂けました。明石さんは，一番の充実感と喜びを感じています。

〈実習３日目〉

学生の明石さんは，２日間の患者築地さんの情報やケアの根拠を調べて行動計画を考え，２回目の報告に臨みます。明石さんは，築地さんが再入院しないためにも減塩食についてどう考えているかを聞きたいと思い病室を訪室します。明石さんとの関わりを通して築地さんに変化が見られます。明石さんと築地さんの関係性も変化し，相互作用を通してあたたかさがあふれ出します。

## Ⅳ．動画を視聴した学生の感想

［倫理的配慮］看護展開論実習が終了した時点で，動画の視聴と感想を200字程度でクラウド型教育支援システム（manaba）の機能を使用して提出依頼をした。その際，提出した内容は，実習の成績には全く関係ないこと，今後の教育に活かしたいことを伝えた。学生の感想は，個人は特定せず，ID 番号をつけ整理した。

学生100名中96名から提出された感想を，意味内容が同じものをまとめて，構造化した結果を**図２**に示す。

### 1．実習のリアルを疑似体験できた

①〈実習のリアルを疑似体験できた〉と述べた学生は，45名であった。代替実習ではわからなかった病棟実習のイメージや流れがわかった，学生の困難や失敗がリアルで自分も明石さんのように感じた，明石さんの思考過程を体験できた，実習における学生の成長過程が体験できたと述べていた。

②〈自信がない自分〉を意識し，③〈学生の困難感に共感〉したと述べた学生は34名であり，寝ている患者に声を掛けられない，コミュニケーションで沈黙に焦る，バイタルサインの測定に失敗する，看護師への報告で緊張する場面設定は，学生が遭遇する困難な場面設定としては，妥当であったと考える。

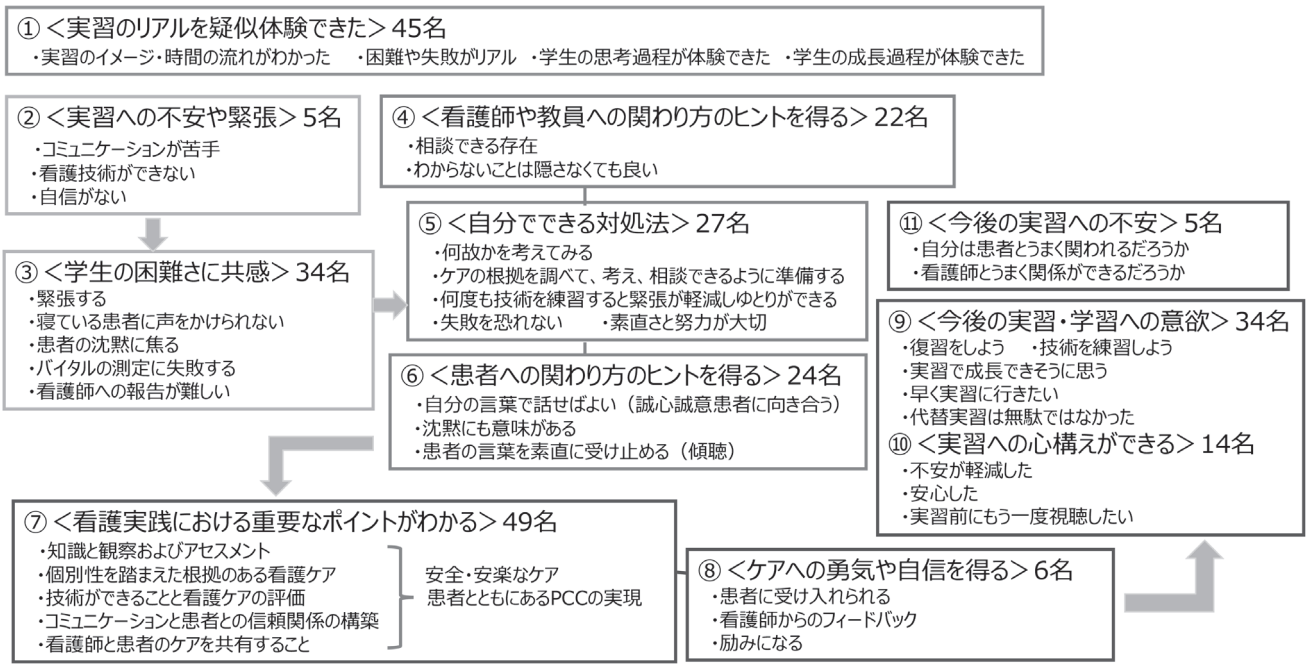


図２　２年生の看護展開論実習での本動画の視聴と感想（96名）

### ２．困難を乗り越えるヒントを得る

様々な困難感を感じながらも患者，看護師，教員とのかかわりの中で困難を乗り越える場面から，学生は困難をどの様に乗り越えたらいいのかのヒントをつかみとっていたと考える。

看護師や教員は相談できる存在であり，わからないことは隠さないで良いことがわかったと④〈看護師や教員への関わりのヒントを得る〉と述べた学生は22名，自分でなぜかを考え，ケアの根拠を調べ，わからないことを相談できるようにする，何度も技術を練習することで緊張が軽減しゆとりができるなど⑤〈自分でできる対処法〉がわかったと述べた学生は27名，患者との沈黙には意味があり，患者の言葉を素直に受け止め（傾聴），自分の言葉で誠心誠意向き合い話せばよいと⑥〈患者との関わりのヒントを得る〉と述べた学生は24名であった。

### ３．看護実践におけるポイントを見出す

その上で，⑦〈看護実践における重要なポイントがわかる〉と述べた学生は49名であった。コミュニケーションや看護ケアの実施を通して患者との信頼関係を構築すること，知識や技術を基盤にして観察やアセスメントから個別性を踏まえた根拠のある看護ケアを実施すること，看護師と患者のケアを共有することなどから安全・安楽なケアが創られることや患者と共にあるPCC（People-Centered-Care）の実現ができることに気づいていた。

また，患者に受け入れられたり，看護師からのフィードバックを受けたりすることで⑧〈ケアへの勇気や自信〉を得ていた。

### ４．今後の実習への期待と意欲

以上の学生の気づきは，⑨〈今後の実習や学習への意欲や期待〉34名，⑩〈実習への心構え〉14名をもたらしていた。一方で，自分は動画の学生のようには実習ではできないかもしれないという⑪〈今後の実習への不安〉を感じていた学生は５名いた。

このような学生の学びが得られたことは，動画の内容として，教材作成のポイントとして挙げた①困った場面・一歩踏み出すことで変化が生じる場面を設定したことや②学生の関りや看護ケアを実施することで，患者の反応や健康上の課題が変化することを実感できる内容にしたこと，③学生が患者のみならず看護師，教員との関わりを通して看護の発見をすることが担保されたために，動画を見ながら学生は，「自分であれば，どう感じ，どう考え，どう行動するか」と言う疑似体験ができたことによると考える。

しかし，動画を通して，教材作成のポイントとしての④初学者が理想とする看護師像を見い出す助けになる点は達成できなかった。

## Ⅴ．今後に向けて

### １．学生の感想から見る本動画の可能性

学生の感想を見ると動画開発のねらいは，おおむね達成できたと考える。学生の記述からは，学生一人一人が登場人物の学生明石さんになったつもりで，困難を感じ，乗り越えながら，困難を乗り越えるための対処法に気づき，それによって，患者との信頼関係を築き，個別性を

踏まえた根拠のある安全・安楽な看護ケアの実施を通して，患者と共にあるPCCの実現がもたらされることを見出していた。その上で，今後の実習や学習への意欲や期待を抱いていた。

私達が期待した以上に学生の学びは豊かであり，本動画の開発は臨地実習に行けない学生にとって有用な教材となったと言える。

実習への期待や意欲がもたらされる本動画は，次年度の臨地実習前に再度見ることで，学生の準備性を高めることにつながるのではないかと考える。

基礎看護実習の学生の体験に関する研究では，学生は，教員や指導者との関わりを通して看護の考えを見出す体験が楽しいと感じている，患者との関わりで生じた患者の反応から実習意欲がもたらされる，看護技術への不安と自立してケアを実施したいという欲求を持っている[4)5)]ことが明らかになっている。

本動画においても看護師への行動計画を報告する場面で学生の考えが発展すること，患者とのコミュニケーションやケアの実施の場面で学生が患者に受け入れられ，患者が自ら健康管理に前向きになること，看護技術の場面で学生が看護技術への不安を感じながらも練習し上手くでき充実感を感じることなどを疑似体験したことで，学生が⑦〈看護実践における重要なポイントがわかる〉⑧〈ケアへの勇気や自信を得る〉と感じており，上述の看護学実習の学びと一致していた。

また，本動画を通して学生が実習に向けてのヒントとして挙げた④〈看護師や教員への関わりのヒントを得る〉⑤〈自分でできる対象法〉⑥〈患者との関わりのヒント

表2　看護過程の教育動画としての課題提示版の内容

| 場　面 | 課題タイトル | 課題内容 |
|---|---|---|
| 患者紹介： | 課題1：<br>心不全の病態と治療 | 1）心不全による呼吸苦，下肢浮腫のメカニズム<br>2）利尿剤，強心剤，酸素投与の目的と副反応<br>3）塩分制限，水分制限の理由<br>4）患者の観察項目 |
| 〈実習1日目〉<br>場面1：初めての訪室 | | |
| 場面2：勇気を出して再度訪室 | | |
| 場面3：Nsからバイタル測定提案 | 課題2：<br>アセスメント | 1）バイタルサインズの判断<br>2）歩くと息苦しくなる理由や他の生活行動との関連<br>3）呼吸苦を訴えた時の観察と対応<br>4）下肢浮腫・だるさを軽減するケア |
| 〈実習2日目〉<br>場面4：Nsへの行動計画の報告 | 課題3：<br>看護問題の抽出 | 1）1日目の実習を踏まえた看護問題の抽出<br>2）問題の原因と要因の特定 |
| | 課題4：<br>足浴と温罨法のエビデンス | 1）足浴のエビデンス<br>2）足浴ケア実施の留意点と観察項目<br>3）ラキソベロンの作用・作用時間・副反応<br>4）腰部温罨法のエビデンス<br>5）温罨法ケア実施の留意点と観察項目 |
| 場面5：バイタルサインの測定 | 課題5：<br>バイタルサイン測定の練習 | 1）バイタルサイン測定時の留意点と観察項目<br>2）築地さんに確認する情報<br>3）測定結果（値）を伝えるときの留意点 |
| 場面6：足浴ケア実施 | 課題6：<br>足浴ケアの説明 | 1）足浴ケアの説明時の留意点 |
| | 課題7：<br>患者と学生の変化 | 1）足浴ケアによる患者の反応，学生の反応 |
| 〈実習3日目〉<br>場面7：2回目の行動計画の報告 | 課題8：<br>観察項目 | 1）観察項目（主観的情報・客観的情報）と留意点<br>2）リハビリ見学時の観察項目 |
| | 課題9：<br>酸素吸入中の洗髪ケア | 1）酸素吸入中の患者の洗髪ケアの留意点と観察項目 |
| | 課題10：<br>減塩教育に必要な患者の情報 | 1）減塩教育を実施するために必要な情報<br>2）情報を得る上で，配慮・留意すること |
| 場面8：減塩食のケア | 課題12：<br>減塩教育の原則 | 1）減塩教育の基本的な考え方<br>2）減塩食を食べるときの工夫，料理のポイント<br>4）減塩の必要性の理解を促す配慮・留意点 |
| | 課題13：<br>減塩教育の看護計画 | 1）患者の思いや考え，強み<br>2）減塩教育を進める上での看護者の姿勢・態度<br>3）減塩教育の具体的な内容 |
| 場面9：ケアの相互作用 | 課題14：<br>患者との信頼関係構築 | 1）看護や学習課題の発見<br>2）あなたの看護観 |

を得る〉の中の具体的な内容は，看護実習における困難に対する対処法として示されている内容[4) 5)]，患者とのコミュニケーションのあり方，指導者との関わり方，学び方などとも一致していた。

この点は，本動画を用いて疑似体験をした学生の学びが臨地実習の体験とかなり近い学びを引き出していることを示唆しており，本動画の有用性を裏付けていると言える。

今後，本動画の有用性を検証するためには，動画を視聴した学生と視聴しない学生では，実習に対する不安や緊張，実習での取り組みや目標達成の程度が異なるのかを比較し，その違いを検討するなどが必要になると考える。併せて，少数ではあるが，動画の学生のようには困難を乗り越えられない自分を感じ，実習への不安を抱いた学生が5名いた事実を受け止め，この点が本動画教材の弊害と言えるかどうかを検討することも今後の課題である。

## 2．動画の活用

COVID-19により臨地実習に行けなかった学生の不安の調査[6)]によると，患者や指導者とのコミュニケーション力，看護技術力，看護過程の展開などに不安があり，就職後の影響に不安を抱いている学生も多い。こうした不安の軽減にも本動画は役立つのではないかと考える。

臨地実習に行けない状況になった場合の補助教材として各場面に課題を提示することを加え，1日ごとに看護過程の展開を段階的に学ぶことができる版を準備した。**表2**に看護過程の展開の教材としての課題を提示する。

本動画を教材として，あるいは研究に使用することを考えている場合には，学内教員は，以下のURLからアクセスし，視聴できます。

動画完成版（オリジナル版）36分：3日間の実習体験を通して学生が困難を乗り越え成長する過程が描かれています。

https://drive.google.com/file/d/1yc11EwCbvh0hAnamjirCgchpA73qgEVN/view?usp=sharing

（課題提示版）オリジナル版に学習課題を入れ，学生が課題に取り組みながら3日間の実習を体験できるようにしています。

https://drive.google.com/file/d/1_KdaksTEGvu2QQ1SZkK0TLaLOGfIz8jj/view?usp=sharing

学外で使用することはできません。また本動画を教育・研究に使用する場合は，nawa@slcn.ac.jpにご連絡ください。

## 謝　辞

本教材の開発に関わり編集をお引き受けいただいた一般社団法人財形福祉協会（映像・企画制作）横溝亮平さんに感謝すると共に，動画を視聴し感想を寄せてくださった学生の皆さまに深謝いたします。

本動画作成は，本学の教育改革推進事業費を受けて作成しました。関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。

## 引用文献

1）猪飼やす子，小布施未桂，佐居由美ほか．私の部屋で『患者に出会う』～基礎看護学実習でのvSimの活用～［Internet］．https://laerdal.com/jp/products/courses-learning/virtual-simulation/vsim-for-nursing/［参照 2021-09-27］

2）vSim® for Nursingバーチャルシミュレーション［Internet］．https://laerdal.com/jp/products/courses-learning/virtual-simulation/vsim-for-nursing/［参照 2021-09-27］

3）佐居由美，西野理英，猪飼やす子ほか．コロナ禍における「学士看護展開論実習」－病棟実習困難下にて，いかに臨床を伝えるか－．聖路加国際大学紀要．2021；7：148-53.

4）名城一枝，嘉手苅英子．基礎看護学実習を「楽しい」と思えた学生の実習体験の特徴．名桜大学紀要．2015；20：111-21.

5）長谷川真美，大澤久美枝．基礎看護学教育におけるコミュニケーション力の育成に関する研究．東都医療大学紀要．2017；7(1)：39-51.

6）高岡寿江，石堂たまき，薮下八重．新型コロナウィルス感染拡大下で看護学実習に臨む学生の思い．佛教大学保健医療技術学部論集．2021；15：55-68.